

2024 年度事業報告

【放射能測定事業】

○海洋調査について

福島第一原発事故直後、『近傍の海水の放射能濃度は、セシウム 137 やヨウ素 131 など 10 万 Bq/L まで 上昇した（環境省発表）』とするデータがあります。放射性物質が海洋に流出する原因として、発電所からの海洋への流出、風に乗って運ばれた放射性物質の海洋への降下、陸に降下した放射性物質の河川や地下水を介した海への流出が考えられます。また、2023 年 8 月より福島第一原発敷地内のタンクに溜まり続けている放射性物質を含む処理汚染水の海洋放出も始まっています。処理汚染水の海洋放出は、とても大きな不安材料です。たらちねでは、放射性物質による海洋汚染の状況を継続的に確認するため、2015 年から福島第一原発 1.5 km 沖地点でのサンプリング調査を年 2～4 回、実施しています。また、この調査を実施するため、地元漁業者所有の船を用い、多くの地元ボランティアの方々のご協力をいただきました。

○その他の測定について

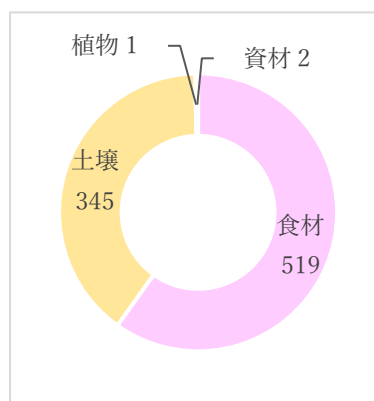
2024 年度の食材測定は、依頼検体の他に、セシウム値が比較的高めである山菜類・きのこ類など、採取から食卓に上がるまでの時間が短く、迅速に情報提供しなければならないものの測定を行いました。ご存知の方も多いかもかもしれませんが、2024 年 4 月には茨城県北茨城市の野生タラの芽、2024 年 10 月には静岡県富士山周辺の野生キノコから、国の基準値を超える食品が検出されました。あらためて放射能汚染の広さと深刻さを示すニュースだったと思います。

また、子どもたちの健康を守るために、海水浴場の海砂や公園などの空間と土壌の環境測定も行いました。地元のお母さんからは、「子どもたちが遊ぶ公園は、たらちねの公園測定結果を見て判断しています」などの連絡もあり、私たちもやりがいを感じています。地域の人たちに役立つ測定を行えました。

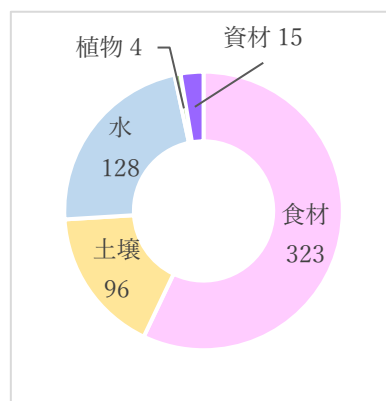
○2024 年度測定件数

合計 1,680 件(セシウム 137、セシウム 134、ストロンチウム 90、トリチウム)

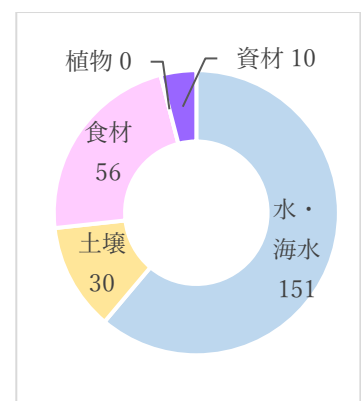
Nal シンチレーション測定器による測定
(セシウム 137、セシウム 134)
総測定件数：867 件



ゲルマニウム半導体測定器による測定
(セシウム 137、セシウム 134)
総測定件数：566 件



液体シンチレーションカウンタによる測定
(ストロンチウム 90、トリチウム)
総測定件数：247 件



○2024 年度測定ラボの主な活動

福島県沿岸採水調査 2024 年 6,10 月実施…詳細については、別紙で報告

福島第一原発沖海洋調査 2024 年 7,11 月 2025 年 3 月実施…詳細については、別紙で報告

宮城県仙台湾周辺海洋調査

今年度も、宮城県の有志の皆さんの協力のもと、計 4 回の調査を実施する事ができました。

沖合 4,9 月実施 採取検体…海水,魚類,プランクトン

測定核種…セシウム 137,セシウム 134 ストロncioウム 90 トリチウム

沿岸 6,11 月実施 採取検体…海水

測定核種…セシウム 137,セシウム 134 ストロncioウム 90 トリチウム

セシウム 137

海水…沖合・沿岸共に全箇所検出されましたが、前回の結果と比較しても同程度の値でした。

魚(沖合のみ)…魚種によって、検出されるもの、されないものがありましたが、福島県沖と同程度の値でした。

ストロncioウム 90

海水…検出されたりされなかったりしましたが、前回の結果と比較しても同程度の値でした。

魚(沖合のみ)…検出されませんでした。

トリチウム

海水…分析が未実施となっています。終わり次第 HP に掲載いたします。

魚(沖合のみ)…検出されませんでした。

※詳細は、HP で確認できますので、是非そちらをご覧ください。

<https://tarachineiwaki.org/radiation/result#kaiyou>

環境測定

- ・海砂サンプリング…5 月実施 原釜海水浴場(南相馬市)・四倉海水浴場(いわき市)
薄磯海水浴場(いわき市)・勿来海水浴場(いわき市)

- ・いわき市の公園測定…1 年通じて実施 全 26 箇所

その他

- ・福島県沖合・沿岸の調査結果を各回ごとにまとめ、いわき市に提出し情報の共有を行いました。
- ・白米や牛乳など、頻繁に口にするものを、産地やブランド別に測定を行いました。

○クロスチェックの実施

公益財団法人日本分析センターとのクロスチェックを行いました。

クロスチェックとは、たらちねの測定が信頼できるものであると証明するためのテスト測定のことです。確認や検証の精度や信頼性を高める手法の一つで、値のズレや誤検出がない事を確認するため行います。その結果から、たらちねの測定が正確であることを科学的にも社会的にも示すことができました。

今回行った結果も、どの核種も、誤差の範囲内で一致していることを確認でき、スタッフの日々の技術向上にも繋がっています。



クロスチェックの結果

試料名	採取日	採取場所	測定機関	セシウム137放射能濃度 (Bq/L)
セシウム海水	2024年10月2日	いわき市/小名浜港	いわき放射能市民測定室たらちね	0.005 ± 0.0005
			公益財団法人 日本分析センター	0.0035 ± 0.00086
	2024年10月2日	双葉郡/富岡港	いわき放射能市民測定室たらちね	0.017 ± 0.0007
			公益財団法人 日本分析センター	0.019 ± 0.0011
トリチウム海水	2024年10月2日	いわき市/小名浜港	いわき放射能市民測定室たらちね	0.16 ± 0.05
			公益財団法人 日本分析センター	0.15 ± 0.018
	2024年10月2日	双葉郡/富岡港	いわき放射能市民測定室たらちね	0.32 ± 0.05
			公益財団法人 日本分析センター	0.29 ± 0.019
ストロンチウム90海水	2024年10月2日	いわき市/小名浜港	いわき放射能市民測定室たらちね	0.0008 ± 0.0003
			公益財団法人 日本分析センター	0.00075 ± 0.000086
	2024年10月2日	双葉郡/富岡港	いわき放射能市民測定室たらちね	0.0008 ± 0.0003
			公益財団法人 日本分析センター	0.00087 ± 0.000093

○海洋調査結果(沿岸調査)

6月と10月に実施しました。沿岸部の海水は、表層のみなので水汲みバケツで採取します。海洋調査に比べると採取自体に負担はありませんが、砂浜から20Lのポリタンクを運ぶのは、女性スタッフにとっては重労働が、スタッフ協力して採取しています。

- 採取検体・海水
- 測定核種
・セシウム137・セシウム134
・ストロンチウム90
・トリチウム



- 海水採取
・表層を採取する。
・水汲みバケツにより採取。
セシウム用=20L、ストロンチウム用=20L、トリチウム用=2L
- ラボに帰ってからは・・・
・海水はろ過（セシウム、ストロンチウム）・蒸留（トリチウム）後に、それぞれの測定用前処理。

地点名	市町村	原発からの距離
相馬港	相馬市原釜大津	北約45km
萱浜,村上海岸	南相馬市原町区萱浜,村上	北約16km
請戸港	双葉郡浪江町請戸	北約6.5km
双葉海水浴場 (マリンハウス双葉)	双葉郡双葉町	北約3.5km
熊川河口付近	双葉郡大熊町熊川	南約3km
富岡港	双葉郡富岡町仏浜	南約9.5km
岩沢海水浴場 (広野火力横)	双葉郡橋本町	南約20km
四倉港	いわき市四倉	南約36km
江名港	いわき市江名	南約50km
小名浜港	いわき市小名浜	南約55km
小浜港	いわき市小浜	南約60km

海水 放射性セシウム 137 測定結果(Bq/L)

	相馬港	村上海岸	請戸港	双葉海水浴場	熊川河口	富岡港	岩沢海水浴場	四倉港	江名港	小名浜港	小浜港
2024年5,6月	0.003±0.0005	0.004±0.0005	0.007±0.0006	0.012±0.0006	0.006±0.0005	0.009±0.0006	0.006±0.0006	0.018±0.0007	0.005±0.0005	0.003±0.0005	0.003±0.0005
2024年10,11月	0.003±0.0005	0.010±0.0006	0.004±0.0005	0.011±0.0006	0.026±0.0008	0.017±0.0007	0.005±0.0005	0.015±0.0007	0.006±0.0005	0.003±0.0005	0.005±0.0005

海水 ストロンチウム 90 測定結果(Bq/L)

	相馬港	村上海岸	請戸港	双葉海水浴場	熊川河口	富岡港	岩沢海水浴場	四倉港	江名港	小名浜港	小浜港
2024年5,6月	ND<0.0004	ND<0.0004	0.0008±0.0003	0.0008±0.0003	0.0012±0.0004	0.0008±0.0002	0.0009±0.0003	0.0009±0.0003	0.0013±0.0003	0.0006±0.0002	ND<0.0006
2024年10,11月	0.0008±0.0003	未実施	0.0012±0.0003	0.0016±0.0003	未実施	0.0008±0.0003	0.0011±0.0003	0.0008±0.0003	0.0007±0.0003	0.0008±0.0003	0.0006±0.0003

※「未実施」は、順次分析中です。

海水 トリチウム測定結果(Bq/L)

	相馬港	村上海岸	請戸港	双葉海水浴場	熊川河口	富岡港	岩沢海水浴場	四倉港	江名港	小名浜港	小浜港
2024年5,6月	0.14±0.05	0.08±0.04	0.13±0.05	0.09±0.04	未実施	0.10±0.04	0.43±0.05	0.11±0.04	0.10±0.04	0.10±0.04	未実施

※10月は、分析が終了次第、HP及び海洋調査測定結果でお知らせいたします。「未実施」は、順次分析中です。

<https://tarachineiwaki.org/radiation/result#kaiyuu>

○海洋調査結果(福島第一原子力発電所 沖合)

2024 年 7 月(海洋放出中)、11 月、2025 年 3 月に実施しました。11 月の調査は、悪天候が重なり、2 回延期となりましたが、何とか実施することができました。

○調査 ・ 2015年9月～2024年11月まで 全26回

○採取検体

- ・海水
- ・魚類
- ・プランクトン

○測定核種

- ・セシウム137 ・セシウム134
- ・ストロンチウム90
- ・トリチウム

○採取地点

- ・第一原発沖1.5km程度の地点 4ヶ所 (A地点、B地点、C地点、D地点) で採取
- ・2021年5月21日の調査より、D地点追加



○海水採取

- ・表層と下層の2層を採取する
- ・表層は水汲みバケツで、下層はバンドーン式採水器により採取する
セシウム用 = 20L、ストロンチウム用 = 20L、トリチウム用 = 2L
- ・採取地点の緯度経度については、船長に確認し記録をとる

○魚採取

- ・釣りにより魚の採取をする
- ・10匹程度を目安として、同種を多く採取した場合は海に返す

海水

放射性セシウム 137 測定結果(Bq/L)

実施日	海水A 表層	海水A 下層	海水B 表層	海水B 下層	海水C 表層	海水C 下層	海水D 表層	海水D 下層	富岡港 表層
2024/7/2	0.003±0.0005	0.005±0.0005	0.004±0.0005	0.006±0.0005	0.003±0.0005	0.003±0.0004	0.003±0.0004	0.003±0.0005	0.009±0.0006
2024/11/20	0.003±0.0004	0.003±0.0005	0.002±0.0005	0.004±0.0005	0.001±0.0005	0.004±0.0005	0.004±0.0005	0.003±0.0005	0.017±0.0007

ストロンチウム 90 測定結果(Bq/L)

実施日	海水A 表層	海水A 下層	海水B 表層	海水B 下層	海水C 表層	海水C 下層	海水D 表層	海水D 下層	富岡港 表層
2024/7/2	0.0009±0.003	0.0011±0.0003	0.0007±0.0003	0.0005±0.0003	0.0013±0.0003	0.0007±0.0003	0.0013±0.0003	0.0012±0.0003	0.0008±0.0002
2024/11/20	0.0007±0.0003	0.0008±0.0003	ND<0.0004	0.0006±0.0003	ND<0.0005	0.0005±0.0003	0.0011±0.0004	未実施	0.0008±0.0003

※「未実施」は、順次分析中です。

トリチウム測定結果(Bq/L)

実施日	海水A 表層	海水A 下層	海水B 表層	海水B 下層	海水C 表層	海水C 下層	海水D 表層	海水D 下層	富岡港 表層
2024/7/2	0.28±0.05	0.44±0.05	1.16±0.05	0.31±0.05	0.22±0.05	0.08±0.04	0.30±0.05	0.14±0.05	0.10±0.04

※分析が終わってないものは終了次第、HP 及び海洋調査測定結果でお知らせいたします。

<https://tarachineiwaki.org/radiation/result#kaiyou>

魚 2024 年 7 月 2 日実施時に採取の一部

	シロメバル		シロメバル		シロメバル		シロメバル		クロソイ		クロソイ		ヒラメ		クロソイ		シロメバル (4匹分)	
重量	0.438 kg		0.416 kg		0.364 kg		0.472 kg		1.0 kg		1.252 kg		1.6 kg		1.212 kg		— kg	
体長	25.5 cm		23.5 cm		23.5 cm		26.5 cm		35.0 cm		38.0 cm		45.0 cm		38.0 cm		— cm	
	測定値	下限値	測定値	下限値	測定値	下限値	測定値	下限値	測定値	下限値	測定値	下限値	測定値	下限値	測定値	下限値	測定値	下限値
セシウム137(Bq/kg生)	0.9±0.07	0.1	0.1±0.08	0.1	1.3±0.07	0.1	1.0±0.07	0.1	0.5±0.1	0.2	0.6±0.07	0.1	0.4±0.1	0.2	0.8±0.1	0.2	0.8±0.06	0.1
セシウム134(Bq/kg生)	ND	0.1	ND	0.1	ND	0.1	ND	0.1	ND	0.1	ND	0.1	ND	0.2	ND	0.2	ND	0.1
船舶自由水トリチウム (Bq/L)	—		—		—		—		ND	0.41	—		ND	0.36	ND	0.37	ND	0.35
有機結合型トリチウム (Bq/kg生)	—		—		—		—		—		—		—		ND	0.07	—	
ストロンチウム90 (Bq/kg乾)	—		—		ND	0.19	ND	0.16	—		4.21±0.11	0.11	ND	0.13	—		ND	0.11

※ND(不検出)は、放射性物質が全く存在しないことを意味するのではなく、測定値が検出下限値未満であることを示します。

【クリニック事業】

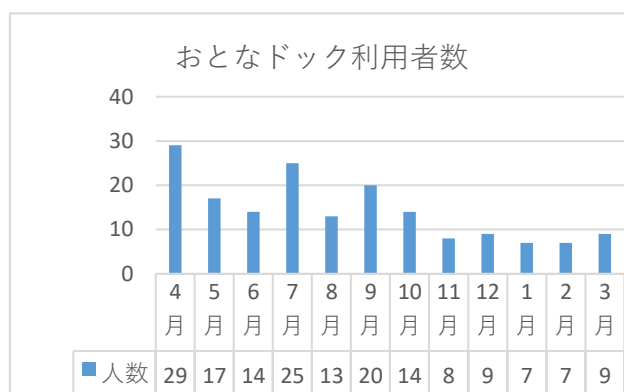
2024 年度は、新型コロナウイルスやインフルエンザの感染流行に対し、様々な対策を行いながら診療を行ってきました。

開院当初より行っている、原発事故当時 18 歳以下の方を対象にした「こどもドック」は、継続してきました。甲状腺検診・ホールボディーカウンター・尿中セシウム測定・血液尿検査・心電図などの結果を「子どもドック手帳」に記載し、本人や保護者に結果の説明を行ってきました。尿中セシウム測定に関しては、示された結果のみでは理解しにくいいため、結果報告書を作成し、直接説明するか郵送して理解を深めてもらえるよう心掛けてきました。

また、2020 年度から始めた、双葉郡と近隣に居住している方・就労している方を対象とした、無料の健康診断も継続して行ってきました。子どもたちが健康に生活していける環境が整っているとは思えない地域への帰還政策や移住政策が推し進められる中、これからも長期的に健康状態を見守っていく必要があります。原発事故から 14 年が経過し、事故当時の子どもたちは成人し、子を持つ親になっている方もいます。今後も幅広い世代の皆さんの健康を見守り続けていきたいと思っています。

○こどもドック・おとなドック利用者数

感染症の流行が落ち着きを見せる中、たらちねこどもドックの受検者数が戻ってきました。県外へ就職・進学をされたお子さんが、いわき市へ帰省するタイミングでたらちねクリニックへ顔を出してくれるのが何より嬉しく思います。おとなドック受検者は、測量や建設業の方が多く、双葉郡の復興が進んでいると言えます。こころの復興が置き去りにされないよう患者さんに寄り添っていきます。

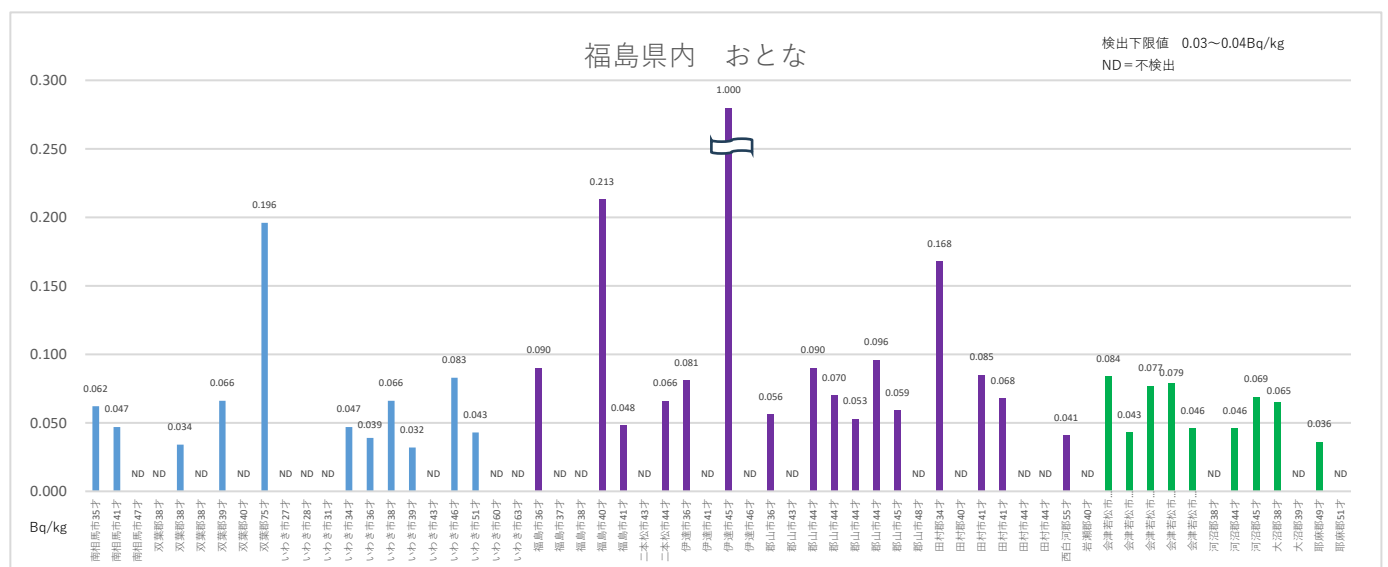
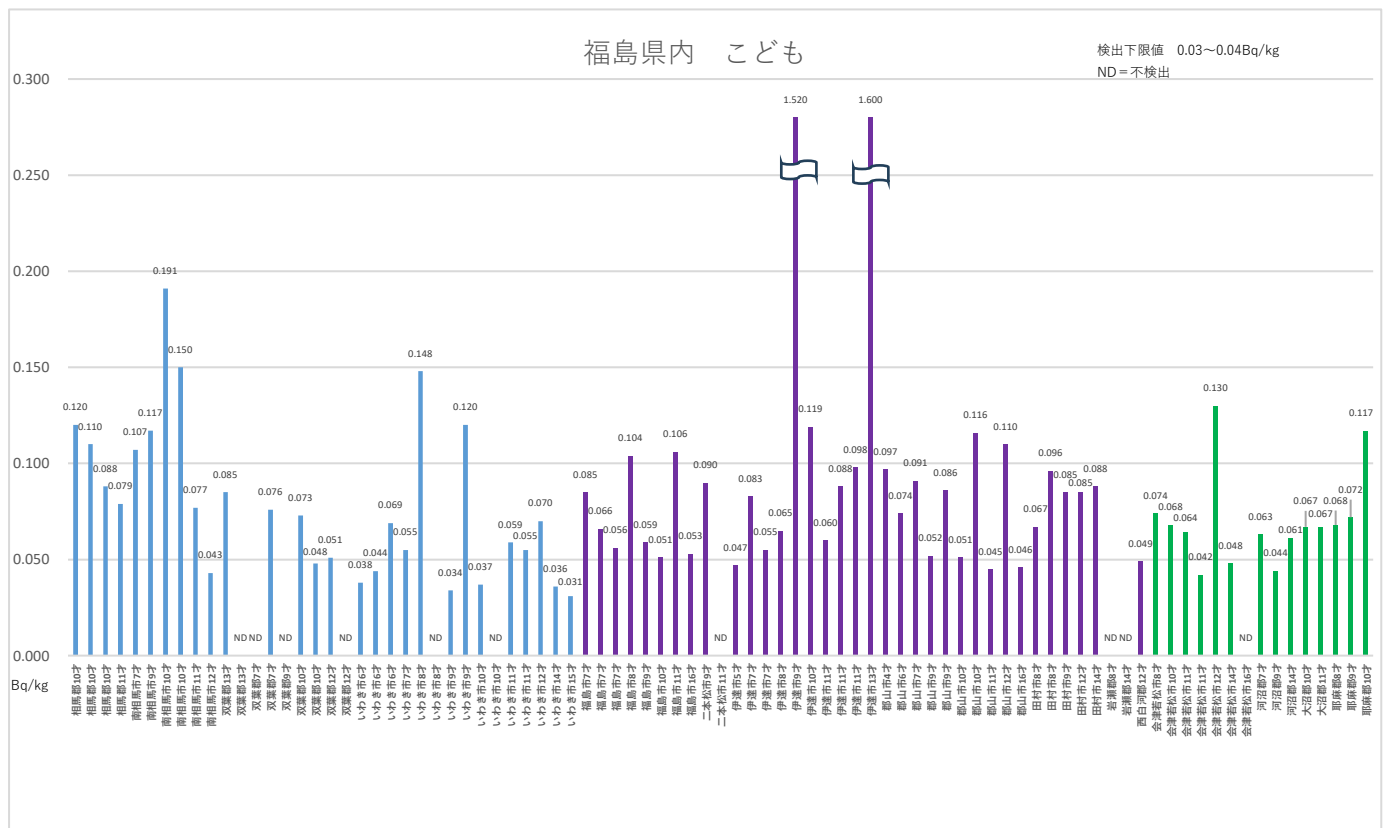


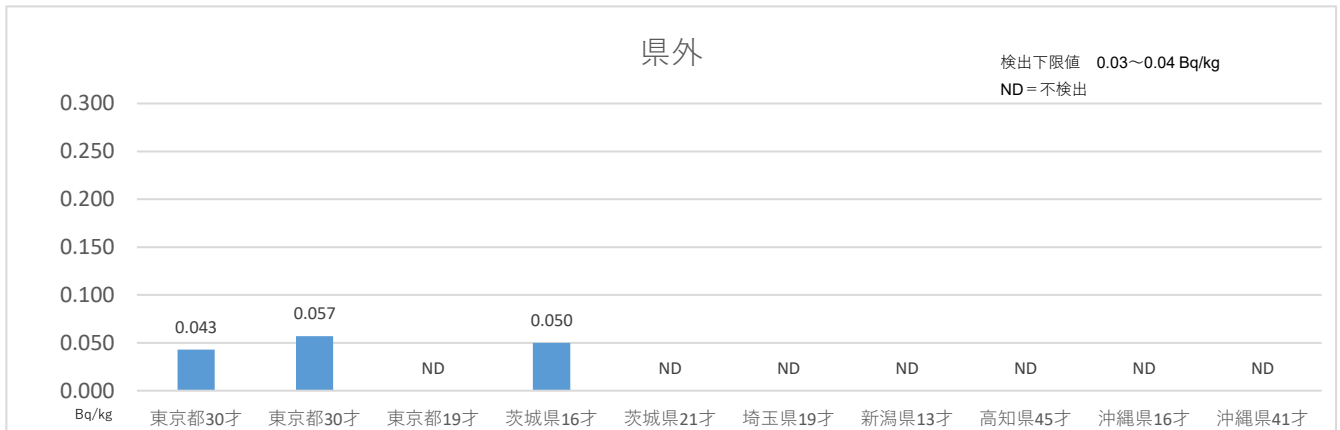
○たらちね子どもドック手帳

たらちね子どもドック手帳は、原発事故で被災した子どもたちが、被災を受けていない地域の子どもたちと同じように健康に成長することを願い制作しました。血液検査や内部被曝の検査を行い、記録することによって、子どもが健康であることを科学的に示すことができます。また、原発事故後、県外避難をせずに被災地で子育てをしている保護者にとって、自分たちがどのように我が子の健康を守り支えてきたかを示すものでもあります。被ばくを受けた被災地で生きる人々は、自分が健康であることの証明をどうしたらいいのかや、そこで生き続けることの罪悪感とどう向き合うのかなど、難しい問題を抱えています。科学的に健康を証明することは、人々が抱える苦しさへのサポートをする上でも重要な役割を担っています。今年度は 95 冊配布しました。2 冊目、3 冊目になる方もいて、2021 年 4 月配布以降、計 305 冊と多くの方に身近なものに感じていただいております。

○尿中セシウム測定

東京電力福島第一原発の事故後、国は被災者の内部被ばくを知る方法として、尿中セシウム測定を提案しました。しかし福島県は、内部被ばくの状況が詳細にわかる尿中セシウム測定を行わず、簡易的なホールボディカウンターによる測定のみを認め実施することにしました。検出限界値が圧倒的に低く、内部被ばくの推移が分かりやすい尿中セシウム測定が、被ばく防御の観点から必要です。そのためたちねでは、2015年からNPO法人新宿代々木市民測定所と連携し、測定を実施しています。年間200人前後の受検者があり、これまで1000人以上の尿中セシウム測定を行ってきました。その結果を知ることにより、日常の食べ物や生活環境を見直し、被ばくの軽減に至った人がたくさんいます。今後も、被ばく軽減のため、尿中セシウム測定を継続していきたいと思ひます。



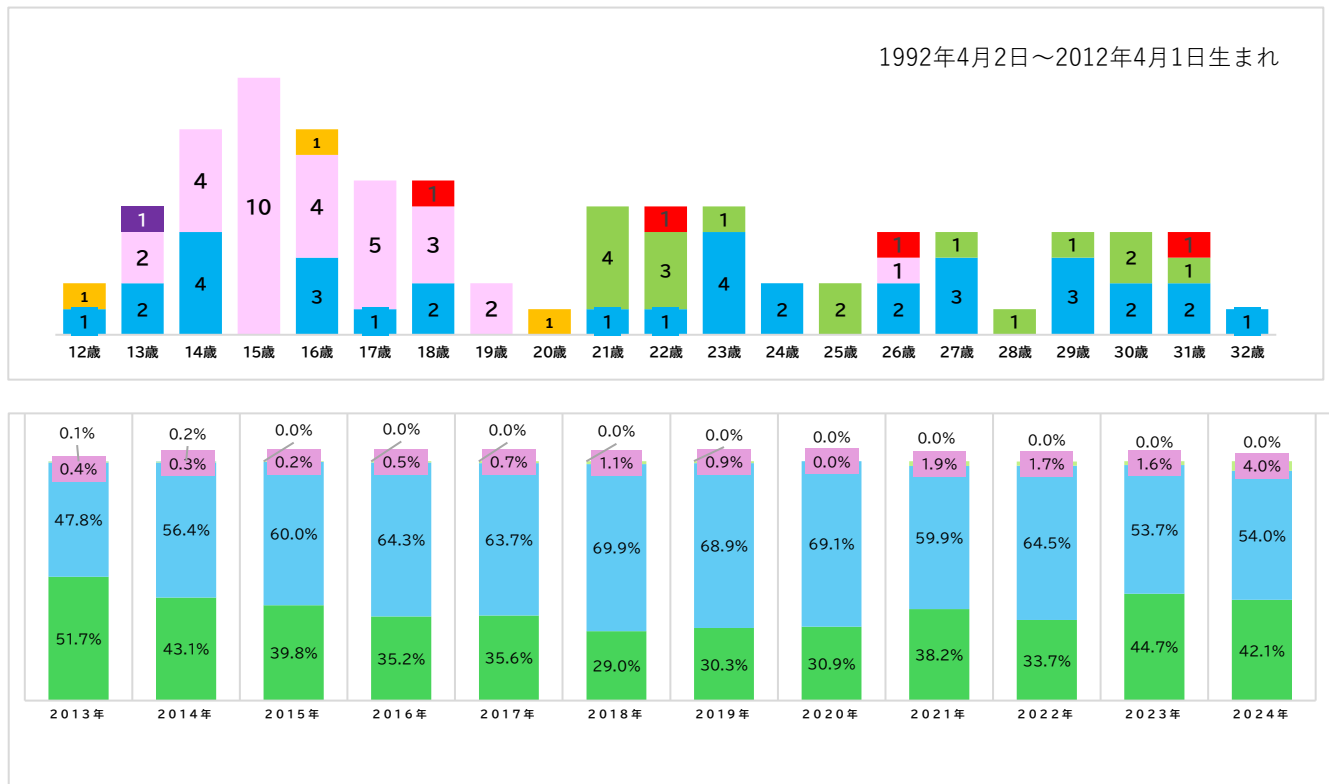


【甲状腺検診事業】

2024 年 4 月～2025 年 3 月の出張甲状腺検診は 11 か所で行いました。いわき市 44 人、福島県中通り 69 人、会津若松市 15 人、双葉郡 9 人、宮城県 41 人、山形県 26 人、茨城県 29 人、東京都 33 人で合計 266 人でした。その中で事故当時 18 歳以下は 89 人です。

年々、受検者人数が少なくなっている事は仕方ないことですが、たらちねでの検査結果で B 判定増えていることは事実です。

福島県の甲状腺検診は 25 歳以上が 5 年ごとの検診になっていますので、たらちねの出張甲状腺検診に是非、足を運んでいただけたらと思います。



- A 判定 発育過程で反応するのう胞
- B 判定 5.1 mm以上の結節・ 20.1 mm以上ののう胞
- A2 判定 1 mm～5 mmののう胞 20 mm以下の結節
- C 判定 直ちに二次検査を要するもの

【たらちね こども保養相談所】

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災から現在までの間、この大震災がもたらした被災地への影響は、姿を変えながら子どもたちの暮らしにも影響し続けています。

その変容とともに、保養の目的にも変化が見られました。震災当時は乳幼児だった子どもたちが思春期にさしかかり青年期へと成長する中で、保養はからだの健康を守るだけでなく、こころの安心を支えるものとしても役割を果たすようになりました。保養地の大自然の癒しが、子どもたちの心身の深い部分にとどき、健やかに過ごすことができました。

被災地の状況は、今後、ますます複雑化し扱いが難しくなります。長く続く原発事故収束の道の中で、今も被災者である子どもたちのために、保養事業にできることは何か？を考えながら事業を遂行した 1 年でした。

○沖縄・球美の里

沖縄・球美の里の保養事業は、2023 年度に認定 NPO 法人沖縄・球美の里から事業を引き継ぎ 2 年目となりました。2024 年度の実施回数は 17 回、子ども 83 名、保護者 55 名、合計 138 名の人々が参加されました。コロナ禍以降、家族保養に形を変え実施してきましたが、家族の中で語りにくかった震災の話や、その後のわだかまりなど、球美の里でゆったりと話すことができる参加者の姿を見るにつけ、このような形も大切だと感じるようになりました。

○他団体との連携保養事業

2024 年度は、前年に引き続きオルトディソーニと、くまべこ・子どもを守るママの会の 2 つの団体とそれぞれに連携し、保養を実施しました。

- オルトディソーニの保養は夏休みに 4 名の子どもがイタリアで 1 ヶ月間を過ごしました。これまで帰還困難区域であった地域の立入りが解除され、居住が促進されている双葉郡の子どもたちが参加しました。保護者と一緒に高線量の地域に移住する子どもたちも、大人同様に様々な悩みを抱え格闘している姿が伺えました。
- くまべこの保養は、夏の球美の里保養参加と、冬の森の分校ふざわお泊まり会の 2 回の実施でした。球美の里保養参加者は子ども 3 名大人 2 名の合計 5 名、冬の森の分校ふざわお泊まり会の参加者は子ども 8 名、大人 4 名の合計 12 名でした。2011 年の福島第一原発事故により強制的に避難を強いられた人々が、近年の帰還促進により「避難先に残る人、もとの居住地に帰還する人」との厳しい選択を迫られ、心の分断が再び起きています。その心を繋ぐ事業として、大熊町出身の母親たちが奮闘しました。



保養の様子は、こちらの QR コードからご覧ください。

【あとリエ・たらちね こころのケア事業】

たらちねでは、こころのケア事業として、あとリエ・たらちねを開設し、今年で7年目となりました。お子さんやお母さんの元気をサポートするために、それぞれの語り（ナラティブ）が自由にできる守られた空間と、遊び、こころの疲れをほぐすボディーワークなどを中心に様々なメニューを揃え、事業を展開しています。2024年度の利用人数合計は、延べ198名。保護者と子どもの利用人数の内訳は、保護者が延べ122名、子どもが延べ76名でした。

○お母さん面談とナラティブ

子どもの身体の不調や行き渋りなど、目に見える問題に困り、初相談は7件ありました。体調不良で病院に行ったが、問題ないと言われ、もうどこにも相談できない…でも、子どもも自分も困っている。どうしたらいいのかわからない…主にそういったご家族です。その不安な気持ちを受け止めてもらえる、安心して話すことができる場所があるというのが大事です。お母さんが悩んでいるということは、同じように子ども自身もコントロールできない気持ちや身体の状態に困っています。目に見える問題になったということは、子どもからサインが出てということです。相談をきっかけに、子どもがあとリエの遊び場を利用し、遊びの力で回復していく姿を見て、涙されるお母さんもいました。子どもはお母さんの雰囲気を感じ取り、その不安な気持ちに波長を合わせてしまいます。ですから、子どもがすすく育つためには、お母さんが元気であることが大事です。このように、朝起きられない、不登校など、目に見える問題だけを切り取って解決できたからよかったのではなく、お母さんと子どものこころを両面からサポートしていくことが大事であると思います。

○ママカフェ ～ 子育てとナラティブ ～ 計8回

月に1回のペースで開催しました。ワークショップでの作品作りや、勉強会、おしゃべりや、ピラティスなど、4名から5名を定員とした小さなカフェです。夏休み・冬休み期間は親子で楽しめるイベントを企画しました。自分一人じゃないと思える空間作りを大切に、心身共にリフレッシュできる、楽しめる時間を設けています。

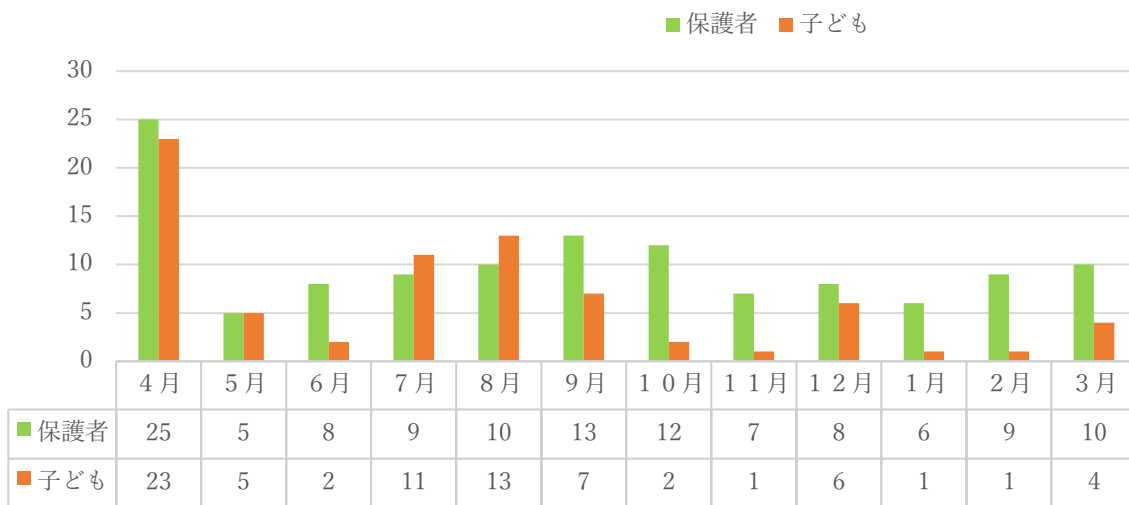
○研修会

- ・6月 世界乳幼児精神保健学会 第19回 タンペレ大会 ポスター発表
- ・7月、10月 いわき乳幼児精神保健学研修会 講師 児童精神科医 渡邊 久子

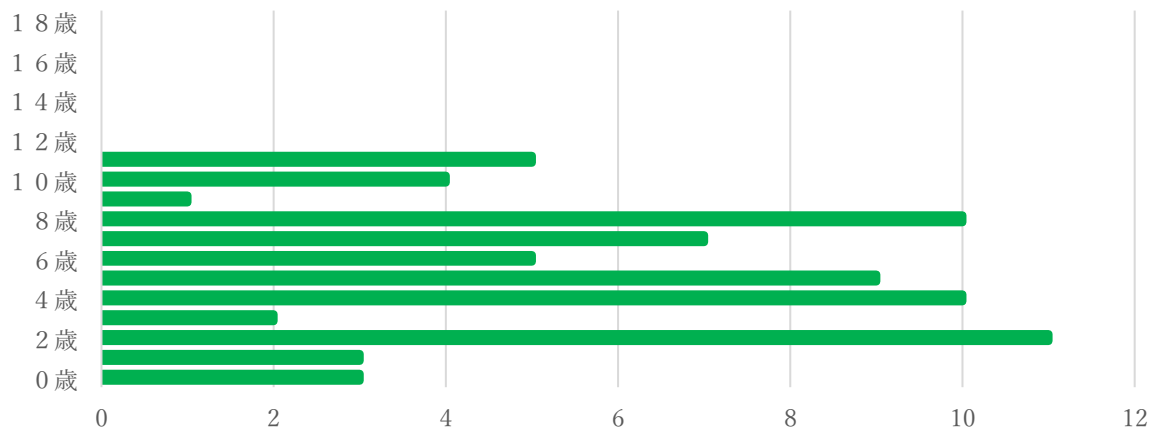
乳幼児精神保健学は、精神学の芯となる学問であり、基礎と土台が大事になってくるため、あとリエの現場で大事な視点となってきます。スタッフのスキルアップのため大きな学びをいただきました。



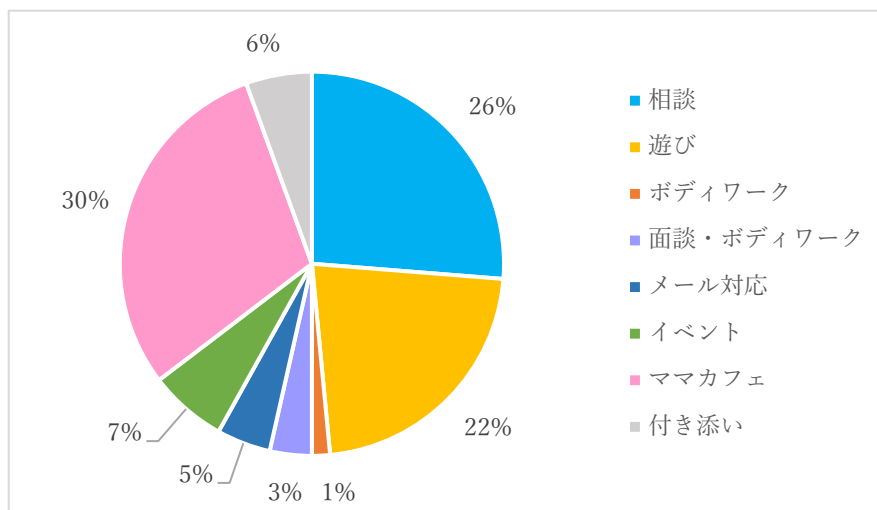
○子どもと保護者の利用人数



○子ども利用者 年齢別



○利用内訳



【防災・原発事故の心得プロジェクト】

○たらちね防災プロジェクト

この防災プロジェクトは、休眠預金を活用した民間公益活動として、助成金を活用し実施しました。原発事故はもう二度と起きてほしくありませんが、自然災害が多く、原子力発電所が多数存在している日本では、明日起きるかもしれないという不安は拭いきれません。

福島第一原発事故が起きた時、私たちには知識も情報もなく、様々な情報に翻弄され、多くの人が余計な被ばくをしてしまいました。本プロジェクトは、市民と女性の目線から考える「原発事故防災」です。3.11を通して、たらちねが経験した、市民ができる防災を女性の立場から女性みなさんにノウハウを共有しました。

2023年1月からスタートしたプログラム1の知る・学ぶ編には、北海道から、西日本までの女性45名が参加しました。原子力防災・減災について考えるため、各分野の専門家のオンライン講座9回と福島の被災地見学会を行いました。

プログラム2は、プログラム1を学んだ方の実習編です。

何度も福島入りしてもらい、発災後の暮らしに必要な放射能測定技術の実習と、甲状腺検診、海洋調査など、体験学習していただきました。

《プログラム2》

2024年1月からスタート。1月から3月までは、オンライン講座や座談会を行いました。

2024年4月～6月 出張甲状腺検診帯同・ガンマ線実習・空間線量測定 10月 沿岸調査

12月 ベータ線実習 2025年2月 海洋調査 3月 たらちね報告会での体験発表



○修了生の居住地域における防災カフェや勉強会

修了生が講師となり、今回の学びを発信。ホットスポットファインダー測定会（市民が空間線量を測定体験するもの）、オンライン学習会、講演会、福島ツアー、SNS 発信、オンライン交流会、など多岐に渡りました。たらちねが各地域に行ける回数は限られてしまいますが、

今は、修了生がこのプロジェクトで学んだ知識を持って、発信側に立ち、活動してくれていることで、小さいながらも原子力防災の広がりを感じているところです。



○2025/3/8 仙台防災未来フォーラム 2025

『3.11 から能登半島：防災・減災のための女性リーダー育成の成果と今後の課題とは』
オンライン登壇しました。

○2025/3/9 世界防災フォーラム 2025

『女性リーダーの育成が、国内外の被災地の女性の尊厳と日々の生活を変えるために必要な理由』
オンライン登壇しました。

○2025/3/21 休眠預金事業：報告会

『防災・減災にかかる女性リーダーの育成と活動の広がり～育成事業の成功の要因を探る』
2 年半にわたり休眠預金制度を活用し全国各地域で女性防災リーダー育成事業を実施してきました。
活発な女性防災リーダーの育成、新たなネットワークの事例とともに、プログラムの全体の成果につ
いて報告しました。

<話題提供>

減災と男女共同参画 研修推進センター 共同代表 浅野 幸子

<評価コメント>

神戸大学 大学院国際協力研究科（学校防災・防災教育）教授 桜井 愛子

○防災 Book “Haha の書” 被ばくからこころとからだを守る防災

原子力防災に関する啓発物は、難しい専門用語が並んでいて、頭の中に入ってきません。

「Haha の書」は原発事故を経験した私たちが、当時どんなことに困り、どんなことに気を付けてほ
しいか、福島の経験を基に作りました。絵本の中のエピソードは、2011 年 3 月に起きた東京電力福
島第一原発事故で被災したお母さんたちが、実際に経験し語ったものです。

この絵本を平時の時から家族でみて、話し合ってほしいと思います。あの時、こうしていればよかつ
た…と後悔してほしくありません。事故が起きる前に知っておくだけで、どう行動したらいいのか考
えられます。市民ができる被ばく防護の絵本です。

監修：天野光 渡邊久子

挿絵・装丁：松本令子

企画・編集・発行：認定 NPO 法人いわき放射能市民測定室たらちね

(2025/3/1 発行)



【地域の人々との車座・座談会】

○車座・座談会

講師の先生を迎え、双葉郡大熊町で計2回実施しました。

双葉郡から避難している人、帰還する選択をした人、震災当日福島第一原発内で働いていた人たちの、普段口に出来ない思いを吐露する貴重な場となりました。参加者の皆さんからも、少人数グループのおかげで多くの意見交換ができて有意義だったと反響があり、スタッフ含め参加者全員が学び知る交流の機会となりました。



第一弾 講師 今中哲二先生

第二弾 講師 藤田 操先生

Link 大熊にて

○たらちね大相談会

双葉郡浪江町（道の駅なみえ）と、福島県郡山市（福島県農業総合センター）にて、たらちね大相談会&出張甲状腺検診を実施しました。

定期的に行っている出張甲状腺検診に加え、保養相談・こころのケア（ワークショップ・箱庭）・放射能測定案内・クリニック健康相談と、全事業の活動を知っていただく場となりました。当日は3歳から80代の方が参加され、甲状腺検診を受検した方が帰り際に、看護師から血圧測定や尿中セシウム測定の説明を受け、たらちねドックに興味を寄せてくれる方、保養相談、放射能測定案内の後にワークショップのパステルアートを楽しむなど沢山の方に喜んでいただきました。



【イベント開催・勉強会・お話し会・登壇一覧】

① 2024年4月16日 第一回子育てとナラティブ with おがわわわ

「大人も子どもと一緒に楽しむおはなしかい」

参加者：39名

② 2024年6月18日（火） 第二回子育てとナラティブ with おがわわわ

「レジンのアクセサリ」

参加者：5名

③ 2024年7月8日（月）第三回子育てとナラティブ with おがわわわ

「ナラティブ会」

参加者：2名

- ④ 2024 年 9 月 26 日（木）第四回子育てとナラティブ with おがわわわ
「むずがり期」
参加者：4 名
- ⑤ 2024 年 10 月 22 日（火）第五回子育てとナラティブ Haha のカフェ
「多肉の寄せ植え教室」
参加者：4 名
- ⑥ 2024 年 11 月 28 日（金）第六回子育てとナラティブ Haha のカフェ
「思春期の子どもと親の“心育て”」
参加者：2 名
- ⑦ 2024 年 12 月 20 日（金）COCOMU 子育て広場 IN イオンモールいわき小名浜
参加者：40 名
- ⑧ 2025 年 2 月 21 日（金）第六回子育てとナラティブ Haha のカフェ
「ピラティス」
参加者：1 名
- 勉強会
- ①2024 年 6 月 15 日 ロバートソンフィルム研究会
講師：JAIMH 理事 松原徹・田中裕子氏
参加者：1 名（Zoom）
- ⑨ 2024 年 7 月 17 日 第一回いわき乳幼児精神保健学研修会
講師：渡辺病院副院長 渡辺久子氏
参加者：5 名
- ⑩ 2024 年 8 月 7 日 子どもと家族に志和瀬奈「子育て」とは
DVD 鑑賞
参加者：4 名
- ⑪ 2024 年 9 月 4 日 JAIMH 理事・会員による講演会「赤ちゃんから見た良いお産とは」
講師：北島博之氏
参加者：11 名

- ⑫ 2024 年 9 月 11 日 JAIMH 理事・会員による講演会「DV の世代間伝達を絶つ DS-IPV の活用」
講師：新城正紀氏
参加者：11 名
- ⑬ 2024 年 10 月 16 日 JAIMH 理事・会員による講演会「近代家族の起源といのちの再生産」
講師：長谷川京子氏
参加者：11 名
- ⑭ 2024 年 10 月 23 日 第二回いわき乳幼児精神保健学研修会
講師：渡辺病院副院長 渡辺久子氏
参加者：4 名
- ⑮ 2024 年 11 月 13 日 JAIMH 理事・会員による講演会
「今の日本の子どもたちの現状をどう捉えるかーヒトの三大欲のひとつ「集団欲」から考えるー」
講師：山下浩氏
参加者：9 名

○お話し会

2024 年 5 月 16 日 廃炉について

講師：安島琢朗氏

参加者：12 名

○登壇

2024 年 3 月 11 日 環境放射能研究会

2024 年 9 月 17 日 生活クラブ埼玉主催イベント さいたま市まちづくり委員会

「認定 NPO 法人いわき放射能市民測定室たらちねとの交流会」

参加者：66 名（会場 50 名、zoom16 名）

2024 年 12 月 14 日 女性の防災プロジェクト参加者主催イベント

参加者：16 名

【見学・取材・メディア掲載情報】

○見学者・取材件数

見学者人数：155 名 取材件数：12 件

○SNS フォロワー数

- ・フェイスブック 14,952 人
- ・Instagram 1,359 人
- ・X（旧ツイッター）806 人

○メディア掲載一覧

■2024年4月「未来の福島こども基金ニュースNo.28」



■2024年4月29日 株式会社共同通信社編集制作部発行

「kyodoWeekly No.18・19」



■2024年11月15日 NPO法人ベルダレルネーヨ発行

「沖縄カカオプロジェクトニュースレターvol.11」(球美の里)



■2025年1月 東京ワーカーズ・コレクティブ

協同組合情報誌「せれくとNo.98」



■2025年1月29日 ニューヨークタイムズ発行「市民科学者が原子力災害地帯を取戻す」



■2025年2月 NPO法人ベルダレルネーヨ発行

「国内プロジェクト報告」



■2025年3月20日 日本消費者連盟発行「消費者リポートNo.1691」

